年長5歳児　指導案

日　時：令和６年４月２４日（水）

　　　　１２：４５～１３：３０

対　象：年長児　　３名

園　名：新宿区立淀橋第四幼稚園

授業者：教諭　　　滝上　奈緒子

会　場：遊戯室

**１　活動名**

巧技台『巧技台で遊ぼう！』

**２　ねらい**

〇巧技台や一本橋など新しい遊具の使い方を知り、安全に楽しく遊ぶ。

〇友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わい、自分から意欲的に色々な動きに挑戦する。

**３　内容**

・新しい遊具に自分から関わり、使い方を知る。

・巧技台など組み合わせ方など試したり、思いを出し合ったりしながら遊ぶ。

・友達と一緒に動きながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさや色々な動きに挑戦する面白さを感じる。

・年下の友達が楽しく遊べるよう考え、組み立てようとする。

**４　幼児の実態**

・４月に１名退園し、在籍名３名の学級である。

・これまで巧技台を活用する際は、教師がほぼ組み立てた場で遊んだり、年中児の時に年長児が作った場に呼んでもらったりしてきた。自分たちで作り進めていくのは今回が初めてであるが、「年長になったら自分たちで使える」と興味関心はもっている。

・運動に関しては、男児２名は体を動かすことを好み、日常の中でも走ったり、遊具（雲梯やジャングルジム・登り棒）に意欲的に挑戦したりしている。女児は、友達の刺激を受け、以前より色々な運動遊びに挑戦しようとするようになる。しかし、怖いという気持ちが先行し、躊躇する姿も見られる。

・日常的に小学生の体育の授業や体力アップ運動の活動を見たりして、自分たちもやってみたいと思い、できることや似たようなことを真似して楽しんでいる。

・日常的に他学年との関わりを作っている。そのため、自分たちで場を作り、遊ぶと「〇〇組さんを呼ぼう」と自然と言葉が出る。

・少人数なので、日常から重いものや大きなものを運ぶ時、互いに声を掛け合い、手伝い合う姿が見られる。

**５　研究主題に迫るための環境及び教師の援助**

**（１）幼児が色々な動きを経験するための環境と援助**

・巧技台や一本橋などがどこにあるか分かり、自分たちで出して使える環境（十分な数と種類）

　・友達の動きを「そのやり方もいいね」と保育者が認める声掛けをすることで、周りの幼児への刺激

になる。

　・渡る、歩く、ジャンプするなど、様々な動きができるように場を設定する。

**（２）幼児の「やってみたい」という意欲を支えるための環境と援助**

・巧技台など自分たちで使える、出せるような環境

　・巧技台では、高さや組み合わせ方を自分たちでアレンジできるので、やりながら環境を変えられる。

　・自分なりのサーキットのイメージを認め、一緒に作っていく。

　・自分で選べるので、待ち時間が少ない。

**（３）幼児が体を動かすことを楽しんでいると思われる言葉（つぶやき）・表情・行動**

・色々なルートを自分たちで作るので、「今度は、こっちをやってみようかな」と挑戦したい気持ちが芽生える。

　・思いが形になっているので、「もっとやりたい」「もう１回やりたい」と繰り返しサーキットを楽しむ。

　・達成感や満足感が自信につながり、少し難しい所も最後まで行おうとする。

・できなかったこと（はしご）をできた時に、満面の笑みを浮かべる。

※「環境と援助」とは…　（私たちが捉えること）

「環境」…物的環境（材料・場・遊具・空間など）、人的環境（保育者・友達・保護者・地域の方・講師など）、自然環境（動植物・季節・気候など）など、幼児を取り巻くすべてのこと

「援助」…保育者が幼児の実態やその遊びを理解し、発達・発展を見通して行うこと

≪例≫一緒に遊ぶ、共感・承認・提案・確認などの言葉かけ、見守り、環境の構成(再構成)など

・援助は環境に含まれるが、幼児の人的環境で重要な役割を担うため、視点として取り入れた。

**６　活動の流れ**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 幼児の活動 | 環境構成（〇）及び保育者の援助（☆） |
| １２：４５１２：５５１３:３０ | 〇巧技台などの使い方を教師と一緒に確認し、安全な使い方や出し方を知る。〇教師と一緒に巧技台などを組み合わせ、サーキットを作る。・友達と声を掛け合いながら、巧技台を運ぶ。・ジャンプするところは自分たちで高さを考えて設定する。〇出来上がったら、安全確認をする。〇サーキットで遊ぶ。　途中で年中児（４歳児うさぎ組）に声を掛けて、一緒に遊ぶ。・遊ぶ前に、遊び方を実演する。・一本橋、ジャンプ、ウェイブバランス、はしご等を行う。〇教師と一緒に片付ける。〇今日の振り返りをする。・楽しかったところや次こうしたいところ、今日やってよかったところなど、それぞれが思いを出し合う。 | 〇巧技台や付属する遊具が出しやすく、使いやすいように環境を整えておく。☆出し方や巧技台の組み方など、実際に見せながら、一人一人がきちんと理解して、扱えるようにする。〇最初なので、一緒に運びながら、場作りをしていく。☆一緒に運びながら、持ち方の確認をしたり、運ぶ順番など考えたりしていく。☆自分たちで作っていく意識がもてるように、どうしたいかなど一緒に話し合いながら、進めていけるようにする。☆自分たちの思いを聞きながらも危ない箇所は、気付けるように伝えていく。☆今回は、出来上がった後に年中児を招待するので、高さを変えて準備できるようにする。☆自分たちで安全確認し、安全意識をもてるようにする。〇動線がぶつからないように、場の位置を配慮したり、進む方向を分かりやすくしたりする。☆年中児が入ってきた時点で、遊び方を知らせる。☆遊ぶ中で、危なそうな動きがあれば、その都度声を掛けていく。☆最初に確認した約束を再確認して、片付けられるようにする。☆今日の組み立ての中でよかったところや次にどうやっていくか、考えられるように投げかけていく。 |